

日中経済交流研究会新聞

2018年 訪中団レポート

「歴史と異国風情漂う遼寧省 大連の今昔を見る」

(2018年10月20日～24日、28名参加)

今年の訪中団は、遼寧省「大連」。日本との関わりが深い東北の港町であり、歴史と今の中国を実感できる興味深い5日間でありました。

毎回のことながら、単なる視察旅行ではなく同友会会員さんの関わる先を巡る視察は一味違います。IT関連企業、味噌メーカー、大手電動工具メーカー、大学生や地元企業家の方々との交流と、盛りだくさんでした。また休日には旅順、丹東と歴史を感じさせる街を巡りました。

「一歩跨」【北朝鮮との国境の街、丹東】

柵の外の小川を超えればそこは北朝鮮という場所（一歩跨）や、国境となっている川「鴨緑江」の遊覧船の上から見る北朝鮮は、人けがなく寂れた感じの町並みで、派手な看板がかり人や車の往来が絶えない丹東とは全く対照的な外国でした。国境にかかる橋「中朝友誼橋」を北朝鮮から渡ってくる国際列車を見た時には、感慨深いものがありました。

キャッシュレス社会

今回訪問した「NETSTECH社」は、日本の「NET STARS」の子会社。マルチ決済「STARPAY」のアプリや「WeChat」のミニプログラム開発を手掛けます。日本に中国人スタッフを20名派遣しアプリを開発、中国国内では顧客サポートとプログラム開発を担っています。

中国のキャッシュレス化には驚かされます。街のショッピングモールなどで買い物をする、財布を開いているのは私だけ。現地の方々はスマホで支払いを済ませていました。高額紙幣を出すと「WeChat Pay は無いのか?」と露骨に嫌な顔をされます。

やはりドラマとアニメ

「大連海事大学」では、学生さんとの交流。団員さんの中国語会話の先生のツテという訪中団ならではのご縁での訪問でした。大変優秀な学生がたくさんいましたが、やはりアニメなどの日本文化に興味があるようで、経済的側面よりも文化面を重視されているようでした。7%弱の経済成長とはいえ、人気のホワイトカラーへの就職は容易ではないなど、中国の今を語ってくれました。

日本は周回遅れ

「大連金岡食品有限公司」は、明石

市の「松井味噌株式会社」の子会社。大連に進出されて28年の進出企業の老舗。大変興味深い話の連続で、その内容にメモを忘れて聞き入ってしまうほどでした。話の内容は、苦労はするが大連は味噌づくりには適していること、先んじての進出が功を奏して年商が100倍になったこと、役人の賄賂社会と納入業者とグルになって私腹を肥やしていた従業員の話（かつて役人は、ヤクザ。従業員は、泥棒といわれたという）、今の中国人の生活事情、ハイリスクな国故のベトナムを加えたリスクヘッジなど多岐にわたりました。

特に印象に残ったのが「日本は、ビジネスの上では中国に周回遅れ」ということです。減速しても6.5%の経済成長、10年で倍の市場に発展する勢いの中国ビジネス。儲けに向かって努力する気質、意思決定の速さ、短期間でスクラップ and ビルドを繰り返す事業意欲の旺盛さ…。

それらを有する中国ビジネスマンに比べて、ビジネスを倍にしようとは思わない日本企業家のマインド、起業数の少なさを指して「周回遅れ」と言われていました。「中国はもっとお金になる。いかに彼らに財布を開かせるか?それがこれからも大切」とも言われていました。

大胆な中にも絶えずリスク管理をするバイタリティーの塊のような松井社長から、多くを学ばせていただきました。

正に日中経済交流研究会の醍醐味です。

まとめ 株式会社電研社 野村明宏



【お詫びと訂正】11月号 日中経済交流研究会新聞 上野氏のご紹介文3行目に下記の通り誤りがございました。お詫びして訂正いたします。
(誤) 1998年から中国・河南省に → (正) 1988年から中国・河南省に